

誰もが例外なく、それぞれ ヒューマンヒストリーを  
持っています。

その歴史は、どうしてここに生まれ ここまで来た  
のかということと共に、これからどこに向かって  
生きていくのかということでもあるのでしよう。

すでに経過した過去の時間と、これから展開  
していくであろう未来の両方のドラマを静かに  
見つめていると、両方向の時の流れから「私」に  
託されたものが立ち現われてくるような気がして  
きます。自分に与えられた役割や課題があるならば  
できる限りの真心で担いたい！と、ヒューマンヒストリー  
はそんな衝動を湧き上がらせ励ましてくれる、進行形  
の自伝なのかもしれません。

しかも「私」の歴史は それぞれ一人の私では成り立たず、  
出会う人々との共同作業の中でつむいでいますから、「私」の  
伝記は、他者との「出会いの記録」そのものに他なり  
ません。

人生の中で 一瞬しずかにある時と同じくらい、人との  
向き合いや やりとりが磨練の時間であるのは そういう  
理由なのではしう。

「存在の根拠」…「存在する意味」…という言葉が  
身体の内深くから立ち昇ってきます。

私は 他者の中で生き  
他者が 私の中で生きる

七夕の頃になると いつも そんなことを思ってしまう。

いよいよ！学期しめくくりの7月です。なつまつりも待って  
います。うれしな7月となりますように！

園長 升光泰雄